

令和2年度 第2回横浜市いじめ問題対策連絡協議会

(日 時)	令和2年10月28日(水) 14:30~17:20
(場 所)	横浜市役所18階 みなと6・7会議室
(出席者)	佐野哲也、小川江一、松本豊、岩間文孝、秋好直樹、小倉克彦、住田剛一、小間物晃弘、村山小百合、中澤智、永木宏一郎、吉川正則、遠藤寛子、霧生哲央(代理出席:健康福祉局福祉保健課長 新井隆哲)、前田崇司 15名
(欠席者)	太田広明(1名)
(開催形態)	公開(傍聴者0名)
(議 題)	<p>1 講演 テーマ:「つながりは、ともに いじめを乗り越える力になる」～今だからこそ、大人として できること～</p> <p>2 協議 (1) 「いじめ防止に向けた提言」策定について (2) いじめ防止啓発月間(12月)における取組について</p> <p>3 報告 (1) いじめ問題等に関する各機関・団体の取組について (2) 令和元年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果</p> <p>4 その他 令和3年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について</p>
(議 事)	<p><第1部></p> <p>1 教育委員会挨拶 前田委員より挨拶</p> <p>2 会長選出 小倉委員に決定</p> <p>3 会議録の確認 住田委員に決定</p> <p><第2部></p> <p>1 講演 (小倉会長)</p> <p>それでは次第に従いまして、第2部に進みます。本日は、神奈川大学人間科学部特任教授の近藤昭一様をお招きし、「つながりは、ともに いじめを乗り越える力になる ～今だからこそ、大人としてできること～」という演題で御講演いただきます。近藤先生のプロフィール等につきましては事務局より御紹介させていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>(事務局)</p> <p>近藤先生を御紹介させていただきます。近藤先生は、本市の中学校の教諭として22年間勤務されました。うち8年間は生徒指導専任教諭だったとお聞きしております。南希望が丘中学校校長を経て、本市教育委員会児童・生徒指導担当課長及び部長、横浜市教育委員会センター所長を歴任され、市立南高校校長に就任されました。その後は、玉川大学大学院教授を経て、神奈川大学特任教授として教職員を目指す学生の育成に携わっていらっしゃいます。</p>

専門分野である生徒指導、学校経営、教育相談、メディア論等の著書も多数出版されており、現在本市のいじめ問題専門委員としても御尽力をいただいております。本日は、いじめ問題の実態と背景について、客観的なデータを根拠にしながら整理した上で、いじめを乗り越えるために、「今だからこそ大人としてできること」について、「つながり」をキーワードに御講演いただきます。

(小倉会長)

近藤先生に御講演をいただいた後に、本協議会として、市民全体で今後取り組んでいく方向性を確認するとともに、取組をより深めていくことを目的とする「いじめ防止に向けた提言」の策定に向けて、先生にも入っていただいて、皆様と協議し、提言を取りまとめたいと思います。それでは、近藤先生、よろしくお願いいたします。

【資料1：神奈川大学特任教授 近藤昭一氏による講演】

(小倉会長)

近藤先生、ありがとうございました。思った以上に子どもが関わっていないとか、孤立感を感じているということが重い背景になっていると思いましたが、特に今年は長期休校を受けて、その背景がさらに重くなっている状態で、今の子どもの姿と重なりました。会の冒頭のところで、学生のキャンパスライフについて、関わりのお大切さだし、学校でやれることはたくさんあると思いながらお聞きしました。大変ご示唆のあるお話をたくさんいただきました。どうもありがとうございます。

引き続き、次第2の協議に入ります。

2 協議

(1) 「いじめ防止に向けた提言」策定について

(小倉会長)

(1) 「いじめ防止に向けた提言」の策定について、近藤先生にファシリテーターをしていただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(近藤先生)

それでは、皆様引き続きよろしくお願いいたします。事務局からは、子どもたちに向け、社会に向け、地域に向け、大人たちに向けて提言をして、より一層いじめ防止対策が進みますように、何らかのアクションの基になればいいとお考えになっているとのこと。事務局から提言の内容について、御説明をいただきたいと思っております。

(事務局)

【資料2について説明】

(近藤先生)

ありがとうございました。子どもたちに向けて、また育成しようと取り組んでいる大人に向けて、提言をしていこうという趣旨ですね。ここからまたいろいろな活動が活性化していくとよろしいかなと思うのですが、皆様方にはぜひ忌憚なく御意見をいただいて、追加なり修正なり、御自分の立場を踏まえながらも、社会全体や子どもたちの環境を考えながら、この辺のことを加えたらどうかなど修正を含めて、御意見をいただけたらと思っています。

最初からだ難しいですかね。5分程、お隣同士で感想や何ができるかお話し合いをいただくことでいかがでしょうか。

【5分程度 話し合い】

(近藤先生)

お話がいろいろあった様で、まとまらなくても良いと思いますが、こんな風な取組だとか、この提言を受けてこんな取組も可能だ、ということでもいいですし、この点をこんな風に変えてもどうでしょうかとか、この辺を付け加えましょう、でも良いですし。話し合いになった中で、この辺を出してみようとか、気楽にいろいろ出していただいて、後は事務局の方で上手にまとめてくれると思います。言いたい放題でいいので、どうぞ出していただけると思いますけど。それではそれぞれお願いします。

(佐野委員)

先生と先程お話をさせていただきました。今回キーワードの中でこの資料の中にある人間の関係性、つながりという言葉が非常に印象に残りました。子どもたちの孤立化というか、自信のなさというのがいじめにつながる一つの要因というのが講義にありましたけれども、我々支える側の大人たちもどうしていったらいいのか、非常に社会の中に疲弊感を持ちながらこの子どもたちをどうやって支えていくかという、余裕、ゆとりもない様な、非常に辛い立場という気持ちがありました。冒頭にもお話ししましたが。私たち、児童生徒さんといろいろな悩みですとか、いろいろな関心事ですとか、そう言ったことの電話の遣り取りや手紙の応酬などを一つの事業としてやっています。なるべく一方通行にならないように、最後に「また連絡してね」とか、「またお手紙待っています」というような言葉を添えて遣り取りをしている中で、たくさんの事例はありませんけれども、やはり複数回、「また手紙出しちゃいました」とか、「また連絡させてもらいました」「すごく気分が楽になって」というような言葉や手紙を頂くことがあります。そうした時には、やはり我々職員も何か見えない糸が繋がったというか、関わり、関係性がもったということで、非常に、後でまた何々ちゃんから、何君から手紙が来たというような連絡が来たことで、非常に充実感、喜びを持ったりすることがあります。非常に有意義な講義を聞かせていただきました。ありがとうございました。

(霧生委員 代理：新井氏)

提言を受けてということとは少し違うかもしれないのですが、先程も講義をいただきまして、本当に子どもが育つというところでは、人とのコミュニケーションを学ぶというところが非常に大きなことだと改めて教えていただいたと思います。そうした場として学校の役割は大変大事で、個人的に感謝もしています。町内会の加入率が非常に低くなっているということも、地域の中でコミュニケーションを学ぶ機会もなかなか得られなくなっているという事ですので、学校の役割をあらためて評価することも、いじめを防止する事につながるのかなと思います。

(遠藤委員)

提案の趣旨にお書きいただいているとおり、今回の新型コロナウイルスで、改めて人との繋がりの大切さが認識される一方、偏見や差別が起こりがちな社会になっている中で、「そう

じゃないんだよね」というメッセージを発信していくということは、非常に大切な事ではないかと感じております。近藤先生の講演にありましたとおり、子どもを取り巻く大人が、豊かな人間関係を構築しようということを、いじめ防止に向けた提言という具体的な形で発信していくというのは本当に大事な事なのだと思います。この提言の中で3点ほど記述していただいておりますが、私たち大人が、という主語を入れるとより分かりやすくなるのではないかと。もしくは、この提案の趣旨の中に、私たち大人が提言にある行動をとりましょう、という意味の文言を入れていくと、誰が心がけて取り組んで行くのか、誰に向けてのメッセージかが、より伝わりやすくなるのではないかと感じました。

(永木委員)

お話しさせていただいている中で、自分自身で感じた事をお話しします。提言という絡みでどこかに対して行うことで提案をするという事だと思っております。先生の確か御説明の中でも社会に対して提案するという事だったかと思いますが、そこら辺は自分としてはどこに対しての話なのかなと、はっきりした方が良いかなと思っておりました。それから、区役所の立場とすると、先ほど自治会町内会の加入率の低さというのがありましたけれども、やはりコミュニティに関しては結構弱ってきているというか、担い手の不足というの、区の方では大変な大きな問題になってきている現状があります。南区はどちらかと言うと、下町が、情緒がすごくあってですね、そこら辺は身近なところでいくと、大変情が厚い部分もあるのですけれども、都市化が進んでいるところだと結構難しいところもあるのかなと思っております。それからもう一つ、今まで教育委員会、学校サイドの方で我々と接触する時には、いろいろな事件がある中で、安全とか安心とかを重視されて、なかなか地域の人間とか多種多様なコミュニティが接触することが難しくなってきたという、これまでの歴史的な経緯があってという気がするのですが、そこと矛盾した様な事をもしかすると我々として、教育委員会の方になってしまう可能性がないのかなと、ちょっと心配になる部分があります。

(小間物委員)

久々にお話を聞かせていただきました。今ここで話したのは、3月からの休校で長い時間で、学校行事が結構なくなってしまった中で、本来生徒同士が作る学校の中でのコミュニティの場というのがほとんどなくなってしまっていたということで、大変だなという声があって、なんとかこれ以降少しでもやっていきたいなという話をさせていただきました。そのコミュニティという話の中で、この休校中の期間、生徒が生徒同士どういつながりを持ったかということ、結局ネットなのですね。ネットの中でやはり誹謗中傷だとかそういういじめに関わるような部分も当然あったかと思っています。ですから、このコミュニティというものがリアルなものなのか、あるいはバーチャル的なものなのかというところで、やはりその辺りが多様になってきていて、どういうものを想像しているのかなというところを少し考えなければいけないと思っておりました。それから、2つ目の出会いを創ろうというところで、この字とても好きなのです。ただ何かこの創ろうというのはゼロスタートになってしまっているような感じもしないでもないと思うので、既にこういう地域家庭との役割をして動いているわけですから、何かもっと創ろうというか、今あるところからゼロではないよ、というのが欲しいなと思っておりました。

(住田委員)

私も近藤先生の講演を久しぶりに聞かせていただいて、本当にありがとうございました。先生のお話はいつも楽しみに聞かせていただいております。最初に感想を少し述べさせていただきたいのですが、途中までのデータを示されている中で、非常に気持ちが暗くなるような、凄く大変な状況に今子どもたちはあるな、ということがよく分かるようなデータで。ただこ

のデータの内容だけを聞いた時に、非常に今の子どもは大丈夫なのだろうかと凄く心配になられた方もいたのではないかと思います。私が学校現場に今勤めておまして、現場の中で子どもたちと触れ合っていると、意外と前を向いて明るい子どもたちの様子が伝わってきます。毎日が楽しくはつらつとしている子どもたちも非常に多いということは肌で実感として感じているところです。そこら辺は当然ながら、近藤先生のデータは切り取りなので、違ったデータもあるということ踏まえた上で聞いていました。さすがに大人の問題に踏み込んだ時に、私たちが正に直面している、やはり今の社会は大人の問題なのだとということに切り込んでいただいているところはすごく良かったなと感動しました。それを踏まえた提言ということで、少し話をしたことがありまして、私自身が事務局にいた時から感じていたのですが、横浜市いじめ問題対策連絡協議会ですから、もちろんいじめ防止に向けた話を当然していくわけなのですが。今ここで事務局の方で考えていただいたこの提言というのは、決してこのいじめ防止に向けた提言ではないな、と自分は少し思っていて。これは何かというと、子どもたちの健全育成に向けた提言なのだろうなど。いじめに特化してしまうのは非常にもったいない提言だなと思って考えています。今年はないですけど、いじめの市民フォーラムが毎年12月に開催していますけれども。市民フォーラムで市民に向けた提案があるにもかかわらず、市民参加がほとんどないという状況が、私が感じているところで。市民全体が一丸となってこの提言に対して取り組む時に、「いじめ」という言葉が、子どもを持たない家庭にとっては響かない言葉になっていないかという心配をしています。いじめの防止と言うが為に、本当に市民全体がそこに向かって行くことを躊躇するというか、うまく言えないのですが、市民の中に入り込んでいく言葉から少し除外されてしまうのではないのかという懸念を持ちました。もちろんこの協議会の発信なので、いじめという言葉がつくのは当たり前ではあるのですが、それで発信するのはもったいないという気持ちがしています。

(秋好委員)

今、直前に頂いた話なのですが、この提言が案ではなくて固まった暁には、いじめだけの側面ではなくて、我々PTAの活動の中でどうやって広めていけるかというのを少し考えていきたいと、今の御意見を伺って思いました。今日は近藤先生のお話を拝聴して感じたことは、過去の先生のいろいろな御指導があつてのことだと思うのです。例えば、我々横浜市のPTAのスローガンなのですが、「おとなも育とう、こどもと共に～つながる想い」ここまではまさにジャストミートです。最後に「新しい時代へ」と続きますが、「つながる想い」というところは、御講演と提言の内容に沿っているのではないかと思います。我々普段活動していながら、おぼろげながらにこういう目的もしくは、こういう目標を持ってやらないといけないという事をいろいろなデータをお示しいただいて、少し自信が持てたというところがございます。先ほどの話に繋がるのですが、是非我々の仲間内でも今日のお話を広げていきたいと感じているのがまず一点です。提言については岩間委員の方から御意見を頂戴したいと思っているのですが、もう一つは、私も今日の話の関連でお話を申し上げると、自治会町内会の話が出てまいりましたけれども、まさに状況としては少しずつ加入率下がっているという厳しい状況を私も承知しています。ある町内の集まりで、連合町内会長から「秋好さん、PTAは何のためにあるの」と言われました。別にそれは意地悪な質問ではなくて、聞かれたらどう答えるかという事で言われて、よく町内会の方に聞かれるのですよね。私は正直言って、一言ではなくて、複数あるのですが、町内会との関わりという関連で言うと、「僕は地域活動の登竜門だと思っています」というお話をしました。いつも意識している訳ではないですよ。たまたまその時に思いついて言ったんですよ。確かに考えてみれば、町内会の役員をやっている方たちが、元PTAの役員をやったとか、流れで今、町内会の役員をやっているのだよという話をされたりしているので、自分たちがやっている

活動というのは、今はその学校とか、その周辺の活動に留まっているのですが、いずれはその地域の活動へ参加する将来の担い手になっていくという、そんな活動なのではないのかなとおぼろげながら思っています。今日の話などでは、まさにそうかなと思っています。自分たちがやっている事はもちろん改善しないといけないところはたくさんありながら、愚直にやっていく事が将来につながっていくのではないかなと少し思いました。まだちょっと気を引き締めてやらないといけないなと感じた次第です。

(岩間委員)

提言についてですが、2つ目の「地域・家庭の役割と自覚において」というところが、少し言葉が強い感じがします。イメージとしてそれぞれが感じてやるのだらうという感じではなくて、包み込む、一体となってこうやるんだよというような、そういう表現の方が良いのかなと感じました。3番目の文なのですが、これは主語が保護者で、子どもがそれを実感できて、そういう子を育てようと思って、これは大人でもいいのではないかなと思っています。例えば「子どもたちと大人が」というような形に変えてもよいのかなと感じました。

(近藤先生)

貴重な御指摘ありがとうございました。今の主語の面と、その役割と自覚においてということ具体的な御指摘なので、また少し検討しなければならないですね。ありがとうございます。

(松本委員)

今のお話を聞いていて、提言ということで再度読ませていただいてですね、私たち子ども会の組織が日頃から取り組んでいる活動と重なるところが大変多いと感じました。子ども会は子どもですけれど、それを支える育成者、コミュニティを含めた組織でございまして、そのところが今少し弱くなっているというところがあります。そういうところを含めて、あらためてこの提言を読ませていただいて、背中を押されるというか、そういう思いがしています。間違えていないというか、励まされた気持ちがしました。先ほど、誰に対しての提言なのかというお話が、委員の皆さんから出て来ましたが、やはり自分に帰ってくるものというか、私たちが今これを改めて取り組むことで、コロナという状況はありますけれども、その先を見据えて子ども会も頑張らなければいけないと、私は解釈させていただきました。ありがとうございます。コミュニティの担い手が不足というお話があって、本当に役員が嫌だからとか、PTAも似たようなことがあるのですけれども、そういうところで組織から離れていく。子ども会というのは、先ほど講師の先生から組織率のお話がありましたけれども、必ずしも子ども会が消滅しているわけではないのです。私たちは連合体で、協議会ですので、そこで会費を頂いて組織として機能している、成り立っているわけなのです。こちらでは単位子ども会と言うのですけれども、そういう子ども会は順番に役員が今度回って来るから抜けるとか、そういった形でどんどん減っていきます。ですから、自治会そのものが持っている子ども会というものはあるのですけれども、それは組織としての数字に表れないというところがあります。私たちもこれから地域振興課等の御協力を頂いて、連合町内会を通して、つながっていない子ども会にも、お金は要らないから情報提供とかそういうのをやろうよ、というような思いも私自身は持っております。そういう意味で、子ども会の数というのは、私自身も分からないところがあるのですけれども、子どもたちを、組織を何とかしたいという思いはどこもあると思うので、そこを何とかしていきたいというのが私の思いです。そういうところに対して、ぜひ行政の方もお力添えを頂きまして、私たちの方も頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(小川委員)

提言についてですが、提言化されることは非常に良いことだと思うのですが、提言を出せばそれでおしまいというわけではないと思うのですよね。これを今後生かしていかなくてはいけないわけですから、それをいかに皆さんに周知して、回数も何回も何回も言って、それでそういうことを継続しながら皆さんに分かっていただいでやっていくことが必要だと思います。例えば、青少年指導員、横浜市で今、2千数百人いますので、例えば、その中で周知させるだけでも、少し大変だと思いますけれども、そこら辺が突破口になるかなと考えております。以上です。

(近藤先生)

ありがとうございます。今の会長様のお話は、まさに行動につなげることですね。こうしないと子どもには届きませんので、是非展開の仕方も含めて十分に練っていただくということで、無駄にしないようにやって参りたいと思います。貴重なお話を皆様から伺いました。それぞれ子どもに関わり、地域に関わり、様々なところで御苦勞をなさっている方々のお言葉ですので、しっかりと受け止めて生かしたいと思います。提言についてですが、誰に対してかというところを、全体としてなのか、この項目はなのか。考えられるのは、子どもたちへ、それから大人たちへ、という両方で含ませていくのかなと考えたのですが、対象者については、一応ここである程度コンセンサスを取った方がよろしいですね。皆様方のお話を伺っていると、子どもたちへ、当然そして大人たちへ、というようなそれぞれのお立場にある大人を通じて子どももあるだろうし、私たちのこの取組が子どもたちへ直接、という側面もあるのだと思うのですね。この両面であるというコンセンサスは、何かお話を聞いて通りそうな気がしたのですが、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、これは大人たちへ子どもたちへと、表現は様々で良いと思いますが、そういう主旨であるということ、それから主語は、大人に指定するか、子どもに指定するかによって変わっていく部分もあろうかと思うのですが、主語は明確にしましょうというくらいならばこの場で。その事によって、提言がより確実になるというか響くというか明確になるというか、そういう意味合いがあろうかと思えます。そんな視点で、子どもである場合も大人である場合もあろうかと思えますが、また私たちという、この機関、組織である場合もあろうかと思えます。そんな面で、いずれにしても主語を明確にして響きを良くすること、それから会長がおっしゃったように行動につながっていくところを意図する意味でもよろしいかと思えます。そういったコンセンサスでよろしいでしょうか。この場でもう時間もありませんので、あとは事務局に修正していただいて、私も相談に乗りますので、やって参りたいと思います。また今後連絡を取り合う形で御意見をお伺いする、というような形になるかもわからないですね。これで決まりというものではないところが、僕は良いところだと思っております。この程度で役割を解かせていただいてよろしいでしょうか。では皆様、御協力をありがとうございました。

(2) いじめ防止啓発月間(12月)における取組について

(小倉会長)

近藤先生、ありがとうございました。それでは、引き続き、いじめ防止啓発月間における取組について、第1回の連絡協議会が開催されなかった代わりに、事務局より皆様を取組内容の案をお示ししたところ、様々な御意見等を提出いただきました。それらを踏まえた具体的な取組内容について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料3について説明】

(小倉会長)

御説明ありがとうございました。ただいま事務局から、12月のいじめ防止啓発月間について説明がありました。内容につきまして、委員の皆様から御意見等ございますでしょうか。

(住田委員)

質問ですが、今おっしゃられていたスタートイベントのパブリックビューイングの動画作成は決定事項ですか。各区どれくらいのボリュームとか、どんなものをということは全然分からないのですが、それを誰がどのような形で作成するのかということまで今の段階では私は分からないのですが、それをやるということを前提にパブリックビューイングは作成されるということは決定事項なのですか。

(事務局)

はい。そのように考えています。

(小倉会長)

いいですか。

(住田委員)

決定なので。質問ですので。

(事務局)

今こちらの方で、それぞれの区の横浜子ども会議の取組状況を把握して、今年度のこういう状況の中で、予定通りの取組がなかなかできていない状況もあるのですが、その中でもそれぞれの学校、ブロックで進めていただいておりますので、それを集約して各区で紹介していただく学校を選んで、動画の方を事務局が中心となって作成をしていくという、そんな状況で考えております。

(住田委員)

動画は作ってもらえると思っていいのですか。

(事務局)

はい。

(住田委員)

事務局の方で作成していただけるという、各学校が作るのではなくて。

(事務局)

そうですね。はい。

(住田委員)

何か資料を提供すればいいと。それは、文章とかでもいいということですか。

(事務局)

一応体裁は考えているので、写真等を提供いただいて、編集等は事務局でやるというような形で考えています。

(住田委員)

わかりました。

(小倉会長)

ほかの皆さんはよろしいでしょうか。基本的にこういう形で進めさせていただきますというように考えておりますが、大丈夫ですか。よろしいですか。はい、どうぞ。

(小川委員)

関係者への積極的な声掛けはよろしいのですか。勝手に来ればいだけで、よろしいのですか。

(小倉会長)

それはまた心強いお話だとは思いますが。

(事務局)

このようにフォーラムも開催できない時期ですし、密というのが一番危険な状況なので、こちらとしては、積極的な声掛けまではお願いしないということで考えています。基本的には来ていただいている市民に対してということですが、多少お声掛けはいただいて、スペースもありますので、御興味のある方に来ていただいて、提言を発信していく形を今回は取りたいと思います。

(小川委員)

市の定例会があるのですが、その時にこういうイベントがあります、という周知すれば

よろしいですか。

(事務局)

はい。もしお時間があつて興味があるようだったら行って下さいと、この時間帯にはこういうイベントをやりますが、一日画像は流しておりますので、もし通りがかりになりましたら立ち寄っていただければと思います。

(小川委員)

それに関してはこれだけですか。チラシとかはないのですか。

(事務局)

特にチラシを作るということは極力しませんが、御案内用のプリントについては、お声掛けいただければこちらからお渡しできるようにさせていただきます。このようなイベントがあるということを御紹介いただければと思います。

(小倉会長)

情報提供の元となるものを頂けると考えればいいですか。

(事務局)

はい。

(小倉会長)

それぞれでできる情報提供をすれば良いということでよろしいですか。

(事務局)

はい。よろしく申し上げます。

(小倉会長)

よろしいでしょうか。啓発月間につきましては、このような形で基本的に進めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。続きまして、関係機関・団体が協働して、12月のいじめ防止啓発月間を盛り上げていきたいのですが、よろしくお願ひいたします。

<第3部>

1 報告

(1) いじめ問題等に関する各機関・団体の取組について

(小倉会長)

それでは、引き続き第3部に進みます。報告1の「いじめ問題等に関する各機関・団体の

取組について、この夏に情報提供をいただき、取りまとめたものとして資料4をお配りしてありますが、時間の関係もありますので個別の説明については割愛させていただきます。委員の皆様から何か発言があればよろしくお願ひします。いかがでしょうか。よろしいですか。私は司会なのですが、学校として、今年分散登校が始まった時にとてもイレギュラーな登校になって、その時に警察関係が我々にも大変気を遣って下さりまして、分散登校の時もそうですけど、分散登校する前はやはり地域に子どもたちがどういう状況になっているか、なかなか図りかねていた状況だったので、やはりそこら辺で警察に本当に力を貸していただきました。今日は警察の方は見えていませんが、本当にありがたいなと思いました。あと、分散登校が終わる頃からです、事務局の方から、心のケアについて、学校がそこを大事にしてこの後子どもを迎えていくにあたって、カウンセラーによる心理教育の情報提供から、アンケート、それから学校再開に向けてのスタートプログラム等の情報提供をいただいて、それは大きな学校の力になりましたので、この場では是非皆さんにお知らせもしたいし、事務局の方にはお礼を言いたいと思っています。ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

(2) 令和元年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果

(小倉会長)

それでは次に進みます。先日発表のあった「令和元年度『暴力行為』・『いじめ』・『長期欠席』の状況調査結果」について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

【資料5について説明】

(小倉会長)

ありがとうございます。ただ今、事務局から元年度の調査結果と、調査結果から見える傾向や子どもの現状等について説明をいただきました。皆様から御意見、御質問等ございますでしょうか。はい、お願ひします。

(小間物委員)

昨年も申し上げたのですがけれども、一応高校も特別支援もこの調査に関わっております。数が少ないので、ここに載せてどうこうという形ではなかなか分析は難しいかと思ひますけれども、何らかの形でそのデータについて還元して、校長会等に流していただくとありがたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(小倉会長)

はい。お願ひいたします。他はいかがでしょう。今回の調査結果も、各機関・団体にお持ち帰りいただいて、今後のいじめ防止に向けた取組に生かしていただきたいと思います。

2 その他

令和3年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について

(小倉会長)

それでは、最後の2番「その他」に進みます。事務局より、令和3年度の協議会の日程について説明をお願いします。

(事務局)

【資料6について説明】

(小倉会長)

ありがとうございます。この件について、御質問等よろしいでしょうか。他に御発言がありましたら。

(住田委員)

最後に本当に申し訳ございません。中学校長会を代表してここに来させていただいていますので、どうしても先ほどのパブリックビューイングについて、一言だけ言わせて下さい。今年度はコロナの影響でずっと学校がない期間が過ぎておりまして、再開してから学校現場は本当に学習保障、どのようにして教育課程を終わらせるのかということに本当に尽力して参りました。その中で、学校行事や生徒会活動を切って切って学習の時間に充てたり、部活動を抑えて下校させたりということに取り組んできました。やはり、この子ども発信のいじめ防止については、なかなか子ども自体が活動できる時間が本当に取れてきていません。ましてや、ブロックの中でこの会議の取組を、と言っても密になる、他の学校生徒児童を招いて行うということはなかなか厳しい状況にあることを御理解していただく中で、もちろん子ども発信のいじめ防止については、当然ながら進めていかなければならないのですが、やはりまだまだ教職員の方が子どもに寄り添って教育相談を充実させていくというところに止まっている学校は多いです。そのような中で子ども会議の取組を何かしら形にして、絵として提供できるという学校は限られているのではないかなという自分の実感値があります。先ほど決定事項という事で、もうこの後流れてくるとは思うのですが、区に1つはあるとは限らないので、そういったブロックがあればもちろん提供はさせていただきたいとは思いますが、それができる状況にあるかどうかは、よく確認していただいて、マストで、ねばならないというのは避けていただくと大変助かります。よろしくをお願いします。

(小倉会長)

要望ということですね。

(住田委員)

はい。

(小倉会長)

よろしいでしょうか。ありがとうございます。他に御意見等よろしいでしょうか。御発言なければ進行を事務局の方にお返ししたいと思います。御協力ありがとうございました。

<事務連絡>

(事務局)

時間が超過してしまい、遅くなりまして申し訳ございませんでした。最後に、住田校長か

	<p>ら貴重な御意見を頂きましたけれども、コロナに関連する差別・いじめ等が危惧される中で、やはりこういう時こそ子どもたちの取組、自主性が大事だと思います。学校には負担をかけずにやるということで計画しております。</p> <p>・令和2年度いじめ問題対策連絡協議会各団体・機関の取組内容の確認依頼</p> <p>〈閉会〉</p>
(資 料)	<p>令和2年度第2回 横浜市いじめ問題対策連絡協議会 次第</p> <p>(資料1) 神奈川大学特任教授 近藤昭一氏 講演資料</p> <p>(資料2) 「いじめ防止に向けた提言」策定について</p> <p>(資料3) 令和2年度「いじめ防止啓発月間(12月)」実施要項</p> <p>(資料4) いじめ問題等に関する各機関・団体の取組について</p> <p>(資料5) 記者発表資料『令和元年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果(小中学校)』</p> <p>(資料6) 令和3年度いじめ問題対策連絡協議会 年間予定</p>